

## 第4回春日井市総合計画審議会 議事録

1 開催日時 令和4年10月12日（水）午後1時30分～午後3時00分

2 開催場所 春日井市役所 第2委員会室

3 出席者

【会長】	中部大学	教授	寺澤 朝子
【副会長】	春日井市社会福祉協議会	会長	黒田 龍嗣
【委員】	安全なまちづくり協議会	代表	青山 克子
	安全・安心まちづくりポニター連絡会		
	春日井市老人クラブ連合会	会長	稲垣 一義
	名古屋大学	准教授	浦田 真由
	春日井商工会議所	会頭	大辻 誠
	公募委員		大床 雅子
	春日井市スポーツ協会	理事長	河村 元夫
	公募委員		後藤 純子
	春日井市区長町内会長連合会	会長	平出 幸広
	春日井市文化協会	会長	山本 博
【事務局】	企画政策部	部長	勝 伸博
	企画政策部企画政策課	課長	鈴木 博明
		課長補佐	後藤 邦昌
		主査	上河原 直人
		主任	林 大生
		主任	坂本 峻

4 議題

- (1) 素案の変更について
- (2) 第六次春日井市総合計画基本計画（中間案）について
- (3) 市民意見公募手続（パブリックコメント）について

5 会議資料

資料1 素案の変更について  
資料2 第六次春日井市総合計画基本計画（中間案）  
資料3 市民意見公募手続（パブリックコメント）について

## 6 議事内容

### (1) 素案の変更について

#### 【事務局】

資料1に基づき説明

#### 【寺澤会長】

春日井市の小中学校で一人一台のタブレット端末の整備が進んでいることは素晴らしいことであり、他市と比較しても進んでいると聞いている。今後も強力に推進していくことが重要だと考えている。

また、環境の分野の成果指標である「自然環境の保全を行う市民団体などの会員数」の目標人数については、再検討してもらった。関心を持って動いていただける方を増やす努力は必要である。

#### 【浦田委員】

G I G Aスクール構想に関して、春日井市は以前から積極的に取り組まれていることを評価したい。また、今まで記述されていなかった内容が今回の見直し案に含まれるようになったことは良いことである。また、子育て世代の方たちには興味がある部分のため、良い形になった。

### (2) 第六次春日井市総合計画基本計画（中間案）

#### 【事務局】

資料2に基づき説明

#### 【寺澤会長】

総合計画基本計画の素案について、皆様の意見を取り入れ、現状の課題に合った形にすることができていると感じる。

各施策に設定されているSDGsのゴールはどのようなプロセスを経ているか。アドバイザーなどの専門家に相談したか。名古屋市のような内部機関が春日井市にもあれば、一度その方に確認してもらえれば良い。

#### 【事務局】

SDGsのゴールについては、専門家等の意見に基づいて設定したものではなく、部署間の協議をとおして決めてきた。今後、進めていく中で検討していければ良いと考えている。

#### 【青山委員】

市から市民意識に関する調査票が近い時期に2回連続で送られてきた。調査票は特定の方に送付しているのか。

**【事務局】**

総合計画に係る市民意識調査は基本的に5年に1回のペースで実施している。その他に、個別計画の策定に関するアンケート調査も実施しているため、複数の調査対象に選ばれることはある。調査対象は無作為で抽出している。

**【稲垣委員】**

老人クラブの女性部会と春日井警察署が協働して、交通安全のため光る素材を用いたセーターや帽子などを制作し、総合福祉センターの舞台ホールでファッションショーを開催した。このような事例を含め、今後の交通安全に対する考え方を教えていただきたい。

**【事務局】**

交通安全は重要な課題であると認識している。まずは、交通事故を防ぐことが必要である。これまでも交通安全教室や意識啓発を始めとした取り組みを推進しているが、今後はさらに力を入れたいと考えている。

**【浦田委員】**

「デジタル化の推進」の記載がある部分に関して、「IT技術」と記載されているが、ITとは日本語訳すると情報通信技術のことであり、「IT技術」は表現の重複となる。「デジタル技術」に置き換えるなど、工夫した方が良い。

また、デジタル技術を活用する目的を明確にする必要があると考える。デジタル技術はあくまでも目的を達成するための手段であるためそれらを踏まえ、推進できれば良い。

**【事務局】**

表現は修正する。なお、今年度から所得課税証明書のコンビニ交付を開始した。開始されたばかりだが、多くの方が利用していると聴いている。今後も様々な形でデジタル技術を取り入れ利便性の向上を図りたいと考えている。

**【大辻委員】**

2050年二酸化炭素排出量実質ゼロの実現に向けて、具体的な内容を示せると良い。

**【事務局】**

脱炭素化の実現に向けては、今まさに内容を検討している段階である。今後、森林が豊富にある市町村などと連携した二酸化炭素の削減に向けた取り組みのほか、子どもへの環境教育や電気自動車の普及についても、検討していきたいと考えている。

### 【大床委員】

健康マイスターの取組みの一環として、弥勒山を登るイベントが企画されている。同イベントは募集から1週間程度で40人が集まるなど人気であることから、潜在的なニーズは多いと思われる。このようなイベントを数多く企画できれば良い。

また先日、ひきこもりや不登校の子どもたちが気軽に働けるカフェに行った。店舗の方から直接話を聞くことができなかったが、このような場所がもっと増えれば良いと思う。

### 【事務局】

健康に関するイベントについては、充実していきたいと考えている。また、来年は市制80周年を迎えるためイベントなどの企画を検討している。

ひきこもりや不登校は重要な課題であると認識している。不登校の小中学生の割合は総合計画の成果指標でもある。ひきこもりの面接相談件数が2016年は年間59件であったのに対し、2019年は156件まで増加している。今後はこのような課題への対応などが必要であると考えている。

### 【寺澤会長】

春日井市は近隣市町と比べてNPO法人が多い。そのような組織と連携して、一人ひとりに手が届くような支援ができれば良い。

### 【河村委員】

昭和の初期は人生50年と言われていたが、今では人生100年という言葉をよく聞くようになり、男性の平均寿命の伸びも顕著である。

一方、出生率は低下している。最近は価値観の多様化などにより、結婚しない30代や40代が増加している。医療費の補助以外に出生率を高めるための施策や支援の検討について教えていただきたい。

### 【事務局】

高齢者の健康については、デジタル技術の活用などを取り入れた取組みを推進したいと考えている。

出生率の向上については、全国的に低下しているなか、結婚しない方への支援等が見つかっていないこともあり、春日井市だけ高めていくことは難しいと考えている。出生への支援については、妊婦に対するサービスの拡充などを検討していく。

### 【寺澤会長】

出生率を高めることは全国的な大きな課題だが、市内で暮らしたいと思う子育て世代を増やす取組みなどは様々な形で検討できる。

また、安全かつ安心して子どもを育てられる環境の整備も非常に重要で

あると認識している。

#### 【後藤委員】

中学生の不登校の子どもの対応にあたっている知人から、中学校で登校支援室が設置され、不登校の子どもが登校できるようになっていると聞いたため、このような取組みが広がれば良いと思う。

P 46 にある、「地域みんなでできること」に記述されてことが実現できれば良い。また、そのような取組みができると、魅力ある町内会を目指すことができ、出生率の向上にもつながるのではないかと考える。

#### 【寺澤会長】

以前、名古屋市で不登校の子どもを多く診ている医師の方から、心の成長のスピードに差がある子どもが一つの教室で同じことを教え、同じことをさせようとする事自体に無理があるという話を聞いた。本人に適応した方法で少しずつ社会と関われるよう様々な機関が連携し、子どもを見守ることができれば良い。

#### 【平出委員】

P 48 の政策分野 4 について、「誰もが地域の担い手として活躍できる環境を整える必要がある」と記述されているが、これは何を意味しているのか。また、P 49 に「外国人市民が安心して暮らせる社会の実現を図る」と記述されているが、どのようなプランを検討しているか教えていただきたい。

#### 【事務局】

福祉分野や市民活動の分野も同様だが、春日井市では市民活動に携わる人材が豊富であると認識している。そのような活動を中心に様々な人を巻き込んでいくような環境を目指すことを考えていく。その結果、町内会の加入率向上や団体活動の向上にもつながり、地域の担い手の一つの拠点として、町内会への支援などについても検討していく必要があると考えている。

また、多文化共生については、外国人が今後さらに増加すると見込んでいるが、以前紹介した日本語教室についても、市の中央に位置する市民活動支援センターでしか実施していないため、取組みを充実していく必要があると考える。

#### 【寺澤会長】

平出委員は町内会についてかなり深刻に色々なことを考えており、高齢者の方に町内会の仕事が偏っていることや、マンションに住んでいる方や若い世代は加入しない傾向もあるため、このままだと町内会が成り立たなくなると懸念されている。

また、例えば町内会が協力している広報春日井の配付は、町内会に加入

していなくてもホームページで簡単に確認できるため、フリーライダー問題が生じている状況が広がっていることに対しても懸念を持っている。

このため、町内会の問題解消に向けて長期的に取り組んでいく必要があると考える。例えば、春日井市が思い切って町内会に加入するメリットとデメリットをはっきり示してはどうか。災害発生時に普段から町内の活動に参加している人の方が救助されやすいという研究結果がでている。

地域のつながりというのは、人生を幸福に暮らすためにとても大事な要素ではあるが、なかなか伝わらず大変な話ばかりが広がっている。町内会があったことで、素敵な出来事が起こったなどの情報をSNSやデジタル技術を活用し、発信していければ良いと考える。市の啓発活動により、誰かのおかげで幸せに便利に暮らせていると思えるよう意識付けができれば良い。

#### 【山本委員】

「区・町内会・自治会などの加入率」の目標が70%と設定されているが、現在の加入率は60%を下回っていると思われる。目標を高く設定することは必要だが、やや高いように感じる。

その他、改定した総合計画を周知する方法を教えてください。また、イラストや写真などについて、現行計画と同じものにするのか、あるいは刷新するののかについても教えてください。

#### 【事務局】

区・町内会・自治会などの加入率は徐々に低下しており、2021年は57.1%である。現状から判断すると厳しいが、70%を目標値に掲げて取り組んでいきたいと考えている。

計画の周知については、広報とホームページで見直し案の市民意見公募をすることを周知するとともに、総合計画が完成した際にも周知を図っていく。また、掲載するイラストや写真については、全て刷新する予定である。

#### 【黒田委員】

社会福祉協議会の立場から、福祉サービス向上のための施設整備に関しては重要であると受け止めている。

P22の「将来像に込めた思い」については、文中に「充実した交通網」と記述されている。確かに交通網は充実していると言えるが、見方によってはそうでないと捉えている人もいると思われる。例えば「都市と都市を結ぶ交通網」などの表現に置き換えるなど検討することは可能か。

#### 【寺澤会長】

確かにP20の市民意識調査に基づく、満足度指数と重要度指数の散布図を見ると、公共交通については満足度が低く、重要度が高い、Aの領域

にあるため、違和感を感じる部分はある。

**【事務局】**

公共交通については非常に重要な課題であると認識している。10月には石尾台地区で地域の皆様により、自動運転カートの本格運行が開始された。意見のとおり、交通網の充実について、見方によって様々な捉え方があることは認識している。タクシーやバスなど既存の交通手段の利用方法の拡充など様々なことを検討していく。

なお、市の将来像は5年前に決定した内容であり、基本構想は令和20年までの20年間を定めている。そのため、文言については、変更ができないことをご理解いただきたい。

また、このことは5年前に計画を策定した際も議論になった。基本構想の記述は、春日井市の成り立ちにおいて、発展していく段階での表現を意図している。生活環境における課題や産業輸送の増加に伴う弊害などの課題は政策分野5の中で整理していることをご理解いただきたい。

(3) 市民意見公募手続（パブリックコメント）について

**【事務局】**

資料3に基づき説明

**【寺澤会長】**

以上をもって議題を全て終了する。

**【事務局】**

町内会に対し皆様から意見をいただき、町内会のメリットやデメリットを示すことの重要性を改めて認識した。しっかり想いが伝わるよう、協議していきたいと考えている。

また、SDGsの取扱いについては、経済・社会・環境のバランスを図りながらゴールを捉えていくことが重要であると考えている。

その他、ひきこもりや不登校の子どもたちが気軽に働けるカフェの取り組みは、重層的支援体制を進めるなか、制度の隙間になっているところを民間の方の発想で取り組まれている事例である。今後、ネットワーク作りも含めて取り組みたいと考えている。

## 7 その他

上記のとおり、第4回春日井市総合計画審議会の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び副会長が署名する。

令和4年12月27日

会 長 寺澤 朝子

署名人 黒田 龍嗣